

スペリア佐屋の防災について-4

7 防災は「自助努力」で

- (1) 国を始め、県、地方自治体の防災に関する情報や対策が発表されますが、発表のたびに倒壊家屋や死者数が多くなっているようですが、それだけ地震だけでなく災害の予報は難しく、最終的には各自が判断し避難や対応をすることが肝心かも知れません。
- (2) 阪神・淡路大震災では家具が倒れ「圧死」や、点検を怠り送電したことで「電気による火災」と「ガスが原因の火災」が多かったようです。



突っ張り棒

戸建て住宅は天井部分が軟弱なため、タンスや食器棚の「突っ張り棒」の効果が弱いと言われておりますが、マンションの場合は天井が固いため効果が大きいと言われております。なお、突っ張り棒は「シングル」より、画像のような「ダブル」が丈夫のようです。

- (3) 災害発生時にはライフラインが停止する恐れがあり、水を保存しておくことは必要です。スペリア佐屋では、自家発電電源を起動させポンプで小型の水槽へ汲み上げて使える設備になっておりますが、万一の場合も考えておく必要があります。



飲料水保存タンク

- ◆受水槽が破壊し水が流失してしまう
- ◆電源やポンプにトラブルが発生する
- ◆機器を取り扱える人が不在

等も考慮し、各住戸でも最低の飲料水を保存しておく必要があります。

一般的には「一人・一日3リットルを3日以上」の確保となっておりますが、水道水を保存しても残留塩素が無くなるため、飲料するには煮沸が必要で「カセットガスコンロボンベ」も必要になります。

(4) 飲料水以上に必要な物は排泄物で、万一、断水した瞬間から排便に困ります。



管理組合が保有している簡易トイレ

スペリアに居住する人は1,000人とすると、トイレを使用する順番を考えたことがありますか？

一回に使用する時間を5分間とすると、1個のトイレで1時間で12人が使用でき、24時間では288人しか使用することができません。

トイレを2個用意しても24時間稼働しても居住する人の半分しか使用できず、飲料水を受水槽から汲み出す際に述べたように設置できる人がいなければ役にたちません。

また、簡易トイレは浄化槽用のため、下水道に繋いだ場合の対応も必要になります。

いざという時のために、各住戸で次の物を備えておくとい良いでしょう。



非常トイレセット

セットの中のビニールを便器に取付け、排便後、セットに含まれている粉末をふりかけると固まるため、袋は一時的にベランダ等で保管できます。



便器にセットする



袋に水を入れ粉末をかけた場合

なお、このセットは車で遠方に出かけた時に渋滞時にも使用可能です。

- (5) 多くの自治体では非常食糧の備蓄は、住民の一食分程度と言われており、3日分以上程度以上は各戸で準備しておく必要があります。



湯や水に浸すだけで食べられる非常食

8 防災マニュアルサイト

仙台市作成の分譲マンション防災マニュアル

http://www.city.sendai.jp/sumivoi/sumai/mansion/bousaimanual_sakusei_tebiki.html

総合ハウジングサービスの防災マニュアル

http://www.sgs-mansion.co.jp/bousai_m_201311/index.html

一週間分の備蓄品例

<http://www.betterhome.jp/info/3771>

愛西市ハザードマップ

http://www.city.aisai.lg.jp/contents_detail.php?frmId=4619

2014.04 執筆者(K)